

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12147

研究課題名(和文) 日蒙助産師で行うモンゴル妊婦肥満改善のためのアクションリサーチ

研究課題名(英文) Action research for improving obesity in Mongolian pregnant women conducted by Japanese & Mongolian midwives

研究代表者

谷口 初美 (TANIGUCHI, HATSUMI)

九州大学・医学研究院・教授

研究者番号：30295034

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、Post MDGsのモンゴル国の妊産婦の健康管理に向けた取り組みで、PDCAサイクルを用いたアクションリサーチである。毎年、モンゴルの首都ウランバートルで全国のモンゴル助産師(110名)を対象に、妊婦肥満に関するセミナーとワークショップを3回開催した。その後、紙媒体のパンフレット、2年目以降はスマホアプリを用いて全国の病院、クリニックで、モンゴル助産師会の会員が中心となり指導した。その成果を毎年の全国アンケート調査で評価した。この結果、助産師、妊産婦共に妊婦肥満の知識は普及され、保健指導を通じて、助産師への信頼性は高くなり、団体の組織評価指数(MACAT)は約2.5倍上昇できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ICM Twinning Projectで日本助産師会とモンゴル助産師会が取り組んだプロジェクトである。Post MDGsを目標にモンゴルの母子保健の向上、特に、問題となっている妊婦肥満の増加に伴う異常出産を予防するための助産師の保健指導とこれに伴うモンゴル助産師会の組織強化を目標として取り組んだ初めてのモンゴル全土で展開されたアクションリサーチである。このプロジェクトを通じ、助産師、妊産婦共に妊婦肥満の知識は普及され、保健指導を通じて、助産師への信頼性は高くなり、団体の組織評価指数は約2.5倍上昇することができた。

研究成果の概要(英文)：This research is an action research using PDCA cycle for health management of pregnant women in Mongolia in Post MDGs. We had three seminars and workshops due to obesity during pregnancy for Mongolian midwives (110 people) nationwide in Mongolia's capital Ulaanbaatar every year. After that, health guidance was conducted using a pamphlet and a smartphone app from the second year at hospitals and clinics nationwide by members of the Mongolian Midwives Association. The results were evaluated by a nationwide survey every year. Knowledge of obesity during pregnancy was disseminated to both midwives and pregnant women, and through this health guidance, the credibility of midwives became extremely high, and the evaluation index of MACAT has risen about 2.5 times from the beginning.

研究分野：助産学、母子保健

キーワード：Twinning Project モンゴル妊婦肥満 アクションリサーチ PDCAサイクル 組織強化 国際共同研究

1. 研究開始当初の背景

国連のミレニアム開発目標 (MDGs) は 2015 年で終了する。目標 4 . 乳児死亡率の削減、目標 5 . 妊産婦の健康改善は到達が危ぶまれ、この目標には、助産師が大きく関わっていることから WHO の勤めで ICM が Twinning Project を 2010 年から推進するようになった。申請者らは、2012 年～2014 年の 3 年間にわたり、(MDGs)の目標に近づけるよう国際助産師連盟 (ICM) の指導のもとベトナム助産師会と共同プロジェクト Twinning Project を行なった実績がある。

地域で直接妊娠・分娩に携わっている母子保健の担い手である助産師の質の担保と積極的な活躍がポストミレニアム開発目標で期待されている。ベトナムと同様、日本は、平成 18 (2006) 年モンゴル助産師会の設立に関与したが、その後、具体的な交流までには発展していなかった。2014 年の ICM プラハ大会での再会を機にモンゴルでの ポスト 2015 年開発目標 (Post MDGs) の中での母子保健支援の必要性を感じ、モンゴル助産師会との Twinning Project が始まった。モンゴルにおける母子保健状況は極めて悪く、平成 24 年 (2012) 合計特殊出生率 2.4 (日本 1.4)、乳児死亡 23 (日本 2.0)、平成 22 年 (2010) の指標で、妊産婦死亡は 63 (日本 5.0) と 多産、高い妊産婦・乳児死亡を示している。そして、本年 2015 年 9 月、モンゴルの助産師活動のニーズアセスメントから課題を明らかにするために、モンゴル助産師会との協働で国際助産師連盟 (ICM) の Global Standards の教育、規則、業務、加盟団体能力評価ツールを用いてモンゴル助産師会理事、助産師教育者、病院の師長を対象にインタビュー調査し、状況を把握した。最近、モンゴルの臨床で問題となっている妊婦肥満、巨大児出産の現場の助産師たちの声に着眼し、モンゴル助産師会の組織強化のためにも、妊婦肥満に関して、全国規模で共同研究を着手する事にし、質問紙 (助産師用・母親用) を考案した。WHO (2014) のデータによると 世界における妊産婦死亡の原因は、妊娠する前から罹っていた病気 (糖尿病、マラリア、HIV、肥満など) が妊娠する事で悪化し死亡に起因するのが 28% を占め、その他の妊産婦の死因の割合は、出血 27%、妊娠高血圧症 14%、感染症 11%、分娩停止やその他の直接的な原因 9%等示されている。肥満に関する病的疾患として糖尿病、高血圧等は生活習慣病の一つである。また、モンゴルでは「大きい赤ちゃんを産む事が女性としての誉れ。」という文化・社会的評価があるため大きな赤ちゃんを産む傾向も根強い。この伝統的価値観に加えて、現在、ウランバートルの都市生活者の 2/3 は車社会となり、食物が豊富になり生活は欧米化になって来ている。また、地理的環境において、冬が長い室内での生活が多く、運動量も減少され消費エネルギーが少ないためか以前よりも 巨大児の出産が多く、出産は困難で、産後の出血や C/S 率の異常出産が高くなっている。助産師達は、厚生省からの妊娠中の食生活のための適切な指導基準がないため妊娠中の摂取カロリーや体重増加の適切な生活指導がなされていない。また、2010 年から JICA による母親手帳・こども手帳の利用が始まり体重計測はされてきているが、体重増加に関する妊婦の関心は薄い。

2. 研究の目的

本研究は、巨大児出産の原因を明らかにし、妊婦肥満の予防・改善に対する助産師の保健指導を確立し、より質の高い助産サービスとしての Evidence Based Practice (EBP) を継続的に推進することが目的である。具体的な研究項目は、H27 年度の調査、ワークショップを踏まえ、今後 3 年間の助産師の妊婦肥満の知識度と保健指導への取り組み、妊婦の妊娠中の食生活と行動変容、モンゴル国の母子保健指標の推移、この共同研究とモンゴル助産師会の組織強化の関連、の 4 つである。これらの項目を PDCA サイクルで実施するアクションリサーチである。

3. 研究の方法

H27 年度の調査、ワークショップを踏まえ、今後 3 年間で PDCA サイクルを使用したアクションリサーチにより実施する。助産師の妊婦肥満の知識度と保健指導への取り組み、妊婦の妊娠中の食生活と行動変容の全国調査をもとに、モンゴル国の母子保健指標：生下時体重、妊娠中の体重増加、妊産婦死亡率、乳幼児死亡率等の推移、この共同研究とモンゴル助産師会の組織強化の関連を最終評価とする。

前年度の全国調査後の保健指導の改善策 (Plan) を半年間、実施して (Do)、助産師・出産後の母親を対象に全国調査を行い (Check)、セミナー・ワークショップを開催して (Action、Plan)、前年度との成果を比較検討し、新たな保健指導案を作成して各地域で更に半年間実

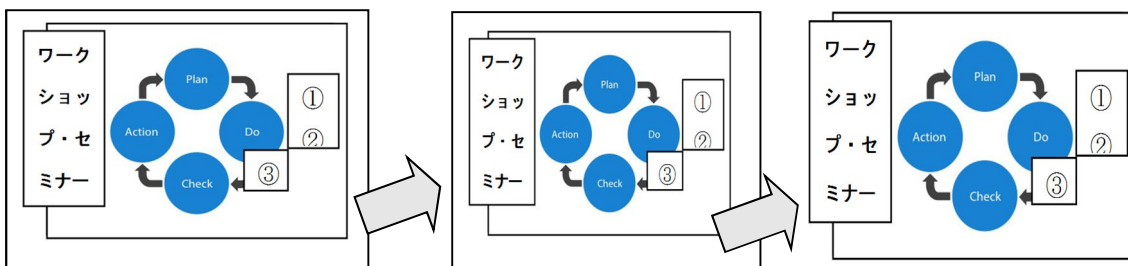
践した。

初年度に関しては、平成 27 年度の第 1 回の全国調査をもとにワークショップ・セミナー(Action, Plan)を開催し、実践(Do)、評価(Check)を繰り返す。随時、モンゴル助産師会 Ms.Dava 会長と連絡して対応して実施した。

<平成 28 年度>

<平成 29 年度>

<平成 30 年度>



活動スケジュール	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
ワークショップ・セミナー (Action, Plan)	8 月	8 月	8 月
全国の現場で実践介入(Do)	8 月	2 月、8 月	2 月、8 月
助産師・産後の母親への調査 (Check)		2 月	2 月
データ回収・入力・分析(Check)		5 月 7 月	5 月 7 月
助産師会組織強化分析(Check)	8 月	8 月	8 月

毎年8月、モンゴルの首都ウランバートルで全国のモンゴル助産師（110名）を対象に、妊婦肥満に関するセミナーとワークショップを3回開催した。その後、紙媒体のパンフレット、2年目以降はスマホアプリを用いて全国の病院、クリニックで、モンゴル助産師会の会員が中心となり妊婦肥満の知識と保健指導を実施した。その成果を毎年の全国アンケート調査で各項目に関して評価した。

助産師の妊婦肥満の知識度と保健指導への取り組み

対象：モンゴル助産師会会員助産師（880名）

方法：平成 27 年度使用した質問紙を使用（基本情報：教育、臨床経験、出産、児の状況；妊婦肥満に対する知識面、指導面）モンゴル助産師会の支部 21 県に全国調査（モンゴル助産師会実施）

妊婦の妊娠中の食生活と行動変容

対象：出産後退院前の母親（2000名）、対象外：死産、精神障害、文盲の母親

方法：21 県の各施設で勤務しているモンゴル助産師会会員が実施する全国調査
層化抽出法にてサンプル数を決めた。

平成27年度使用した質問紙を使用（基本情報：身長、非任時の体重、現在の体重、出産情報、児の情報；妊婦肥満に関する意識：体重増加に対する意識、重要他者、妊娠中の食生活、運動；社会・経済・文化的状況：教育、収入、職種、社会・文化的側面）

モンゴル国の母子保健指標：生下時体重、妊娠中の体重増加、帝王切開率、妊産婦死亡率、乳幼児死亡率等の推移

方法：モンゴル国厚生省のデータにより評価

この共同研究とモンゴル助産師会の組織強化の関連

方法：ICM 組織評価指標 MACAT を使用

データ収集時期：平成 29,30 年 5 月上旬からの 2 週間（モンゴル助産師会理事）

4 . 研究成果

2回の全国調査の回答者は、助産師（2017年762名、2018年672名）、妊産婦（2017年1633名、2018年1563名）であった。妊婦肥満に関するパンフレットとスマホアプリケーションの導入によって、共に90%近くが利便性、情報の正確性を感じ、知識の普及に活用できたことが分かった。また、保健指導を通じて助産師への信頼性に繋がり、助産師自身の専門職としての意識を高めることにもなった。また、このプロジェクトを実施したことでのモンゴル助産師会の会員、理事共に団体運営の評価指数(MACAT)が約2.5倍上昇した。モンゴル助産師会会員、理事からのインタビューから「助産師会の会員である組織の一員でのメリットを理解できた」「妊娠期からの健康管理重要であることが理解できた」「助産師の社会的地位を向上することに非常に役立った」母子保健指標に関しては、明らかな評価は出なかったが、妊婦の大きい子を産むことへの今までの社会的な観念から健康的な児の出産へと意識改革が起こっていた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 谷口初美	4. 巻 72
2. 論文標題 第2回ICM年次理事会に出席して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 助産師	6. 最初と最後の頁 24 - 25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口初美	4. 巻 72
2. 論文標題 モンゴル助産師会とのTwinning Project最終全国調査進捗状況と今後のHappy Birth & Happy Baby Projectに向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 助産師	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤洋子、谷口初美	4. 巻 73
2. 論文標題 モンゴル母子保健セミナー報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 助産師	6. 最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口初美	4. 巻 22
2. 論文標題 産後の母親のこころを支える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口初美	4. 巻 71, 1
2. 論文標題 モンゴル助産師会と日本助産師会のTwinning Project 日蒙助産師で行うモンゴル妊婦肥満改善のためのアクションリサーチ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 助産師	6. 最初と最後の頁 32 - 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Hatsumi Taniguchi, Yoko Sato, Kumiko Adachi, Davaasuren Serdamba, Utako, Yamamoto, Kiyoko Okamoto
2. 発表標題 Positive Outcomes of Twinning project between Mongolian Midwives Association and Japanese Midwives Association using First National Survey
3. 学会等名 ICM Regional Conference, Dubai (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoko Sato, Yuki Nakamichi, Kumiko Adachi Davassuren Serdamba Utako Yamamoto, Kiyoko Okamoto, Hatsumi Taniguchi
2. 発表標題 The 2nd National Survey of Mongolian Mothers' Awareness of Obesity During Pregnancy
3. 学会等名 8th Hong Kong International Nursing Forum (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuki Nakamichi, Yoko Sato, Kumiko Adachi, Davassuren Serdamba Utako Yamamoto, Kiyoko Okamoto, Hatsumi Taniguchi
2. 発表標題 The 2nd National Consciousness Investigation Report on Mongolian Midwives for Treatment of Obesity in Pregnant Women
3. 学会等名 8th Hong Kong International Nursing Forum (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 仲道由紀、佐藤洋子、安達久美子、山本詩子、岡本喜代子、谷口初美
2. 発表標題 全国調査を通して変化したモンゴル助産師の妊婦肥満に関する認識
3. 学会等名 第33回日本助産学会（福岡市）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤洋子、仲道由紀、安達久美子、山本詩子、岡本喜代子、谷口初美
2. 発表標題 全国調査を通して変化したモンゴルの母親の妊婦肥満に対する認識
3. 学会等名 第33回日本助産学会（福岡市）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hatsumi Taniguchi, Yoko Sato, et al.
2. 発表標題 First nationwide survey regarding obesity during pregnancy from the perception of Mongolian new mothers
3. 学会等名 Hong Kong Nursing Forum（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤洋子、谷口初美他
2. 発表標題 モンゴルの助産師に対する妊婦肥満の第1回全国調査
3. 学会等名 日本助産学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 仲道由紀、谷口初美他
2. 発表標題 モンゴルの母親に対する妊婦肥満の第1回全国調査
3. 学会等名 日本助産学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤洋子、末次美子、岡本喜代子、安達久美子、野口ゆかり、吉本祐子、井上彩香、谷口初美
2. 発表標題 モンゴル助産師の妊婦肥満に関する認識
3. 学会等名 日本助産学会第31回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hatsumi Taniguchi, Yoshiko Suetsugu, Yoko Sato, Yuko Yoshimoto, Ayaka Inoue, Yukari Noguchi, Kumiko Adachi, Yoko Shinpuku, Yasue Ota, Satsuki Yamashiro, Davasuren Serdamba, Kiyoko Okamoto
2. 発表標題 Increasing Awareness of Professional Approach for Mongolian Midwives Using a Health Care Pamphlet for Prevention of Obesity During Pregnancy
3. 学会等名 The 14th AAPINA (Asian American/Pacific Islander Nursing Association, Inc) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	川田 紀美子 (KAWATA KIMIKO) (70709592)	九州大学・医学研究院・准教授 (17102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	野口 ゆかり (NOGUCHI YUKARI) (70304847)	九州大学・医学研究院・講師 (17102)	
研究分担者	末次 美子 (SUETSUGU YOSHIKO) (70437789)	九州大学・医学研究院・助教 (17102)	
研究分担者	佐藤 洋子 (SATOU YOUKO) (90778812)	九州大学・医学研究院・助教 (17102)	